

# 組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名： **埋蔵文化財調査研究センター**

部局長名： **宮田 裕州**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>自己評価</b>	
<b>①-1 目標</b> 【教育方法・内容】 ①「博物館実習」の一部を分担し、構内遺跡における調査・研究の成果を教育活動に活かす。授業形式は少人数制をとり、自発的な思考や発言を促すことにより、授業における習熟度をあげる。 【学生支援】 ②「構内遺跡の発掘調査」や「その報告書作成」などを業務とする本センターの職場環境を、幅広い分野の学生に提供し、社会性を高めるための教育的支援や経済的支援を行う。 【その他】 ③学習・研究の場として、授業や学生の受け入れに努める。	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> ①「博物館実習」の授業は26名が受講した。3班に分かれ、1班8名あるいは9名で各2日間の授業を実施した。発掘調査が実施されなかったため室内作業のみとなったが、木製品あるいは出土品の分析記録作業を組み込んで内容を深めた。授業の最後に設けた学生全員がプレゼンテーションを行うという課題に対して、2～3名をチームとし、課題をクリアするためのコミュニケーション力を高める効果も取り入れた。さらに、非常勤職員とともに作業を行うという職場環境の中で、実践型社会連携教育の効果を発揮することができた。 ②オンゼジョブトレーニングの予算を戦略的教育経費で獲得して学生3名を雇用了。ワークスタディで1名の学生を雇用了結果、全体では4名の学生を雇うことができた。学生の所属は4学部(経済学部・教育学部・農学部・文学部)にわたる。その中には、中国人留学生も含まれており、国際的な環境を生み出すことができた。 ③博物館学の授業を、2回(1回は展示会を利用)にわたって受け入れた。
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ①「博物館実習」の授業は1班約10名とし、学生全員が発表する時間を設定する。 ②「オンゼジョブトレーニング」の戦略的教育経費を獲得する。 ③オンゼジョブトレーニングあるいはワークスタディを利用して雇う学生は、複数の分野を対象とし、4名以上とする。	<b>①-2 大学全体への貢献</b> ①「学びの強化のための諸施策の実施」(中期計画2～6・8～10・13・16・46)の目標に挙げられる「課題解決型教育」「実践型社会連携教育」に貢献 ②「総合的な学生支援体制の構築」(中期計画18・19・21～23)に貢献
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ①「博物館実習」の授業は1班約10名とし、学生全員が発表する時間を設定する。 ②「オンゼジョブトレーニング」の戦略的教育経費を獲得する。 ③オンゼジョブトレーニングあるいはワークスタディを利用して雇う学生は、複数の分野を対象とし、4名以上とする。	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> ①授業形態では1班8・9名の少人数制を達成した。学生全員のプレゼンテーション形態の発表は、コミュニケーション力を高めつつ授業の習熟度をあげた。職場環境の中で授業は実践型社会連携教育の効果も発揮した。 ②オンゼジョブトレーニングで獲得した予算は予定の1/4程度であったが学生雇用は3名、ワークスタディを合わせて4名の雇用、そして所属は4学部で複数の分野を対象となり、十分に目標を達成した。1名は中国人留学生で、国際交流の一端を担うことができた。
<b>②研究領域</b>	
<b>自己評価</b>	
<b>②-1 目標</b> 【研究水準及び研究成果等】 ①構内遺跡の研究推進に向けて、確認調査や三次元計測機器(FARO)を活用するなど、積極的な取り組みを実施する。 ②センター教員の個別研究を進め、構内遺跡の研究成果を広く外部へ発信する。 【共同研究の推進】 ③学内の構内遺跡をはじめとする埋蔵文化財の調査研究に関して、関連分野あるいは周辺自治体との連携を強化し、学際的研究を推進する。 【外部研究資金の獲得】 ④全教員が科研費などの申請を行い、外部資金の獲得に努める。	<b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> ①確認調査を実施し、構内遺跡研究の深化を図った。構内に所在する「鳥山城」の測定の下準備を三次元計測機器を使用して実施し、次年度に向けての準備を着実に整えることができた。 ②鹿田遺跡の研究成果を発掘調査報告書の考察や紀要の研究報告に掲載した。一般に向けては、展示会や公開講座を通じて広く発信した。 ③関連分野の研究者に鹿田遺跡の資料(人骨・石材・木製品2件・動物骨・植物種子・貝・ボーリング資料)を提供し連携を図った。合計8件に及ぶが、その内3件は本センター教員との共同研究である。全体的に学際的研究が進行し、今後の研究テーマの芽生えを得ることができた。 ④申請率は科研費が100%である。さらに、若手研究者の積極的な取り組みによる、その他の助成金申請5件を加えた結果、全体で200%の申請率となった。科研費等の獲得は継続研究として科研費の代表者2名(合計148万円)と分担者3名(合計32万円)であり、全員が外部資金を得た。
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ①岡大構内において、研究のための確認調査を1箇所、FAROを使用した調査を1件実施する。 ②調査研究成果を、本センター発行の印刷物や展示会、あるいは関連学会などで発表する。 ③研究面での連携にあたって、関連分野の研究者に構内遺跡出土の資料を提供する。 ④地元自治体等の研究者と連携し、研究の場を設ける。 ⑤科研費の申請率を100%とする。	<b>②-2 大学全体への貢献</b> ④「外部研究資金等の獲得の推進」(中期計画38・39・78)に貢献 ①③「知的財産活動の推進」(中期計画34・80)に貢献
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ①岡大構内において、研究のための確認調査を1箇所、FAROを使用した調査を1件実施する。 ②調査研究成果を、本センター発行の印刷物や展示会、あるいは関連学会などで発表する。 ③研究面での連携にあたって、関連分野の研究者に構内遺跡出土の資料を提供する。 ④地元自治体等の研究者と連携し、研究の場を設ける。 ⑤科研費の申請率を100%とする。	<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> ①岡大構内の確認調査1件とFAROを使用して測量1件を実施し、今後の下準備を進めた。 ②調査研究成果を、発掘調査報告書に4本・紀要に2本掲載した。関連学会での発表は5件以上にのぼる。展示会や公開講座を通じて広く一般に成果を発信した。 ③学内では自然科学系教員との共同研究が3件(ボーリング資料・貝塚資料・植物種子)、学外では5件(人骨・石材・木製品2件・動物骨)の資料提供を実施した。 ④岡山市教育委員会の研究者と連携して、中・近石器の検討を行った。 ⑤科研費の申請率は100%を達成し、それ以外の助成金申請を5件加えると、全体で200%の申請率となった。全体として、いずれの項目も目標を十分に達成することができた。
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>自己評価</b>	
<b>③-1 目標</b> 【地方公共団体/民間団体との連携】 ①自治体などが開催する講座や、地元教育現場の要望などに協力し、社会連携を促進する。 【地域行政への協力】 ②地域の埋蔵文化財に関する事案に対して指導的な助言を行い、埋蔵文化財行政に寄与する。 【地域活性化への貢献】 ③本学周辺地域の「まちづくり」活動に協力する。 【その他】 ④構内遺跡の研究成果をベースにした明るい話題を社会に提供し、岡大のイメージアップにもつながる活動をすすめる。	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> ①岡山県内外からの講座の講師依頼3件に応じて、社会連携を促進した。地元教育現場への協力では、岡山市内の中学校4校からの「職場体験」あるいは「岡山学習」の要請を受けて合計17名の生徒を延べ7日間受け入れたほか、地元の明誠学院高校の平和教育の授業として84名を受け入れ、学内の戦争遺跡・考古資料見学を実施した。さらに、鹿田小学校では6年生対象の出前授業を1日行い、次年度にも継続することとなった。 ②埋蔵文化財行政への協力として、条例設置の委員会や審議会を含む県内外8件の依頼に応じて、指導的助言を行った。 ③鹿田学区町内会の「鹿田夏祭り」への参加と鹿田遺跡イメージキャラクター使用依頼に応じた。当日、同キャラクターとともに会場にブースを出店し、同町内会の取り組みを大いに盛り上げた。 ④鹿田遺跡イメージキャラクター(しかたん)の商標登録に向けて取り組みを進めた。
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ①地方公共団体や民間団体などからの講師依頼に応じる。 ②岡山市内の中学校が実施する「職場体験」に対して、年間1～2校・生徒3～6名は受け入れる。 ③自治体主催の委員会・審議会等を通じて、年間に数回は埋蔵文化財行政等の問題に助言を行う。 ④昨年に続き鹿田町内会の夏祭りに協力する。	<b>③-2 大学全体への貢献</b> ①③「おかやま地域発展協議体等の設置」(中期計画46)に貢献
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ①地方公共団体や民間団体などからの講師依頼に応じる。 ②岡山市内の中学校が実施する「職場体験」に対して、年間1～2校・生徒3～6名は受け入れる。 ③自治体主催の委員会・審議会等を通じて、年間に数回は埋蔵文化財行政等の問題に助言を行う。 ④昨年に続き鹿田町内会の夏祭りに協力する。	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> ①県内外の自治体・民間団体などからの講師依頼3件に対応した。 ②中学校の「職場体験」・「岡山学習」への協力で4校17名を延べ7日間受け入れた。高校(明誠学院)の平和教育の授業・鹿田小学校の出前授業を実施した。地元教育現場からの要請は継続性が高い。 ③埋蔵文化財行政等への助言は、岡山県内4件・県外3件の委員会・審議会に上り貢献度は高い。 ④鹿田学区町内会からの夏祭り参加要請にこたえ、「まちおこし」事業に寄与した。

<b>④センター業務</b>	<b>自己評価</b>
<b>④-1 目標</b>	<b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p><b>【法令遵守へのとりくみ】</b></p> <p>①構内遺跡に対して、<b>建築工事に伴う発掘調査や立会調査などを実施する。</b>調査にあたっては、調査の効率化と質の向上に努める。<b>発掘調査報告書作成のための整理作業を進め、発掘調査報告書を刊行する。</b></p> <p><b>【定例刊行物の発行】</b></p> <p>②『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2015』と『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』56号・57号を刊行する。</p> <p><b>【情報発信】</b></p> <p>③展示会などを通じて、発掘調査の成果を学内外に積極的に公開する。<b>ホームページの改善を図る。</b></p> <p><b>【遺物の保存・管理】</b></p> <p>④<b>木製品の保存処理を進める。</b>遺物の管理体制について見直しを図り、<b>確実かつ活用しやすい保管体制を目指す。</b></p> <p><b>【地球環境への負荷に配慮】</b></p> <p>⑤<b>省エネの意識を高め、電力使用量の節減を推進する。</b></p> <p><b>【その他】</b></p> <p>⑥大学博物館構想にむけ、センター業務の将来像について具体的に検討する。</p>	<p>①適切な立会調査を実施。報告書作成作業5件を進め、鹿田遺跡9次・11次調査(1999年度調査)の発掘調査報告書1冊を刊行。</p> <p>②④紀要1冊・センター報2回を刊行。木製品の保存処理を1期分実施。</p> <p>③展示会を12月7日～11日に開催し、調査研究成果を学内外へ発信。見学者数は延べ197名、同時開催の講演会に37名の参加。新たに40名規模の公開講座を企画し、年度後半に計3回開催。参加者は延べ133名。講師は関連科学の研究者(植物学・農学・日本史)と本センター教員。出土物の展示も加えた形態は参加者から好評を博す。ホームページの英文化に向けて環境整備を進めた。</p> <p>④鹿田遺跡1次調査の遺物について、確実な保管状態に向けて改善を進めた。</p> <p>⑤エアコンの取り替えを実施。</p> <p>⑥本センターの将来構想として大学博物館構想の検討を進めた。</p>
<b>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>④-2 大学全体への貢献</b>
<p>①鹿田地区の発掘調査5件について整理作業を実施し、1冊の発掘調査報告書を刊行する。</p> <p>②紀要を1冊、そしてセンター報を2回刊行する。</p> <p>③展示会を津島キャンパスで1回開催し、ホームページを英文化する。</p> <p>④木器保存処理を1期分行う。</p> <p>⑤鹿田遺跡の出土遺物について、年間で200箱程度の保管状態を改善する。</p>	<p>①「法令遵守の徹底」(中期計画91・92)に貢献</p> <p>②③「情報発信」(中期計画66・84)に貢献</p> <p>④「知的財産活動の推進」(中期計画34・80)に貢献</p> <p>⑤「施設の長寿命化及び地球環境への負荷に配慮したキャンパス整備」(中期計画86)に貢献</p> <p>⑥「教育研究組織改革の推進」(中期計画73～75)に貢献</p>
<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>	<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<p><b>【総括記述欄】</b></p> <p>センター長・副センター長・調査研究室長の交代という運営体制に大きな変化が生じたが、事務管理を担う事務局とセンターあるいはセンター内での教職員間の連携によって滞りなく業務を進めることができた。また、3年間の最終年度となった特別契約職員の重点配置は、約16年前の発掘調査報告書を刊行するという形で十分な効果が発揮された。センター業務としても、長年の課題であった本報告書の刊行は大きな成果である。その他のセンター業務・教育・研究・社会貢献のいずれも、昨年度からの継続性が指摘されるが、研究面では文理融合研究の取り組みが進行しており、今後の発展が期待される。教育面では、オンザジョブトレーニングなどの学生支援事業を通じて国際交流の場を生み出す可能性を認めることができた。今後、留学生も視野に入れた学生雇用が効果的かもしれない。社会貢献では、岡山県立博物館の特別展への貸し出し依頼など、昨年度同様に多様な要請が多く、岡大構内遺跡が地域にとって非常に魅力的な資産であることをより一層印象付けた。さらに、今年度の新たな企画として、小学校への出前授業・定期的な公開講座・岡大病院内のイベントがあげられる。いずれも好評を博し、継続が望まれるものとなった。</p> <p>今後の課題として発掘調査報告書作成・印刷経費の問題が残る。今年度は確保できたが、必ずしも安定的な予算配分とは言えず、厳しい状態にあることは否めない。法律で定められた報告書刊行義務に適切に対応するための安定的な予算確保の方策を検討していくことが必要である。</p>	<p>①②④⑤について、すべて目標を達成した。なかでも、約16年前の発掘調査報告書を300頁を超える内容に整えて刊行できた点は、法令遵守の点でも非常に意義深い。</p> <p>③展示会は津島キャンパスで開催したが、ホームページの英文化については、環境整備などの準備にとどまった。ただし、次年度に向けての基盤作りができた点で、ある程度の目標が達成できたと評価される。</p>